

中国情勢 (東シナ海・太平洋・日本海)

防衛省

(ダイジェスト) 我が国周辺における中国の海洋活動の例

- 中国は高い水準での国防費の増加を背景に、軍事力を広範かつ急速に強化
- 中国軍は、より遠方の海空域において活動する能力を持つことを目指していると考えられる
- 海洋における軍の活動を質・量ともに急速に拡大

用例	
航空機	→
艦艇	→
領海通航	→

※情報収集艦は破線



(注)各事象の概要及び事象が生じた位置関係については報道等に基づくイメージ。列島線の位置関係については米国防省報告書に基づく。

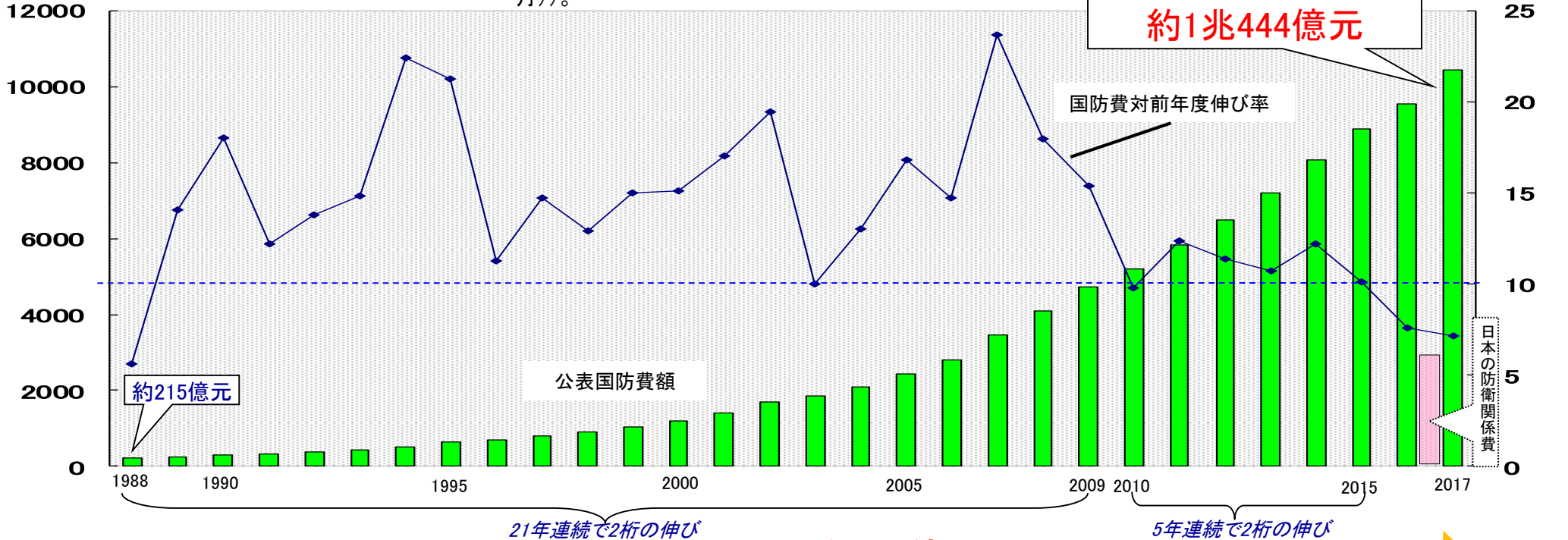
国防費の増加

中国の国防費

中国の公表国防費

※ 中国は、17年度国防費の内訳について一切説明を行っていない。米国防省は、この公表国防費には研究開発や外国からの兵器調達などの重要な支出項目が含まれておらず、2016年の実際の軍事関連支出の総額は公表国防費の1.25倍以上などと指摘している(米国防省議会報告書(2017年6月))。

公表国防費額(億元)



過去29年で約49倍
(過去10年で約3.0倍)

- 中国政府は17年度国防費を**1兆443億9,700万元**(=約17兆7,547億円^(注1))と発表^(注)
- 対前年度当初予算比で**682億2,700万元**(=約1兆1599億円^(注1))増、**約7.1%の伸び**^(注2)
- 日本の平成29年度防衛関係費(予算)は、4兆8,996億円(①SACO関係経費、②米軍再編関係経費のうち地元負担軽減分、③新たな政府専用機導入に伴う経費を除く)(中国国防費は日本の防衛関係費(予算)の**約3.6倍**)

(注) 国防費は中央財政支出における国防予算額

(ただし、15年度以降、中国政府は中央本級支出*(中央財政支出の一部)における国防費のみ公表。15年度については、その後、地方移転支出等が別途公表されたため、合算し、中央財政支出における国防費を算出。17年度については、中国国営新華社通信が、「財政部幹部による発言」として中央財政支出を公表。) ※ 中央本級支出とは、中央財政支出から地方移転支出を引いたもの

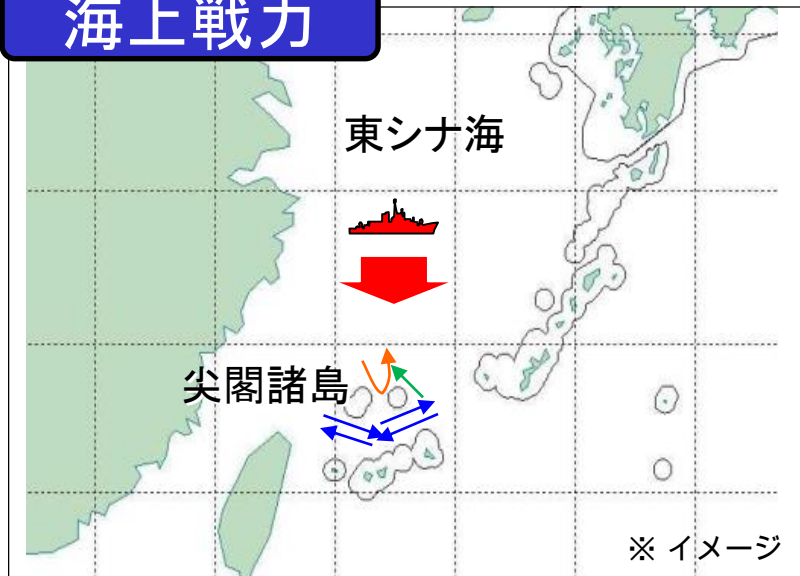
(注1) 1元=17円(平成29年度の出納官吏レート)で換算

(注2) 16年度は中央本級支出における国防予算額のみ公表されたため、16・17年度の中央本級支出で計算

東シナ海・太平洋・日本海

東シナ海での活動

海上戦力

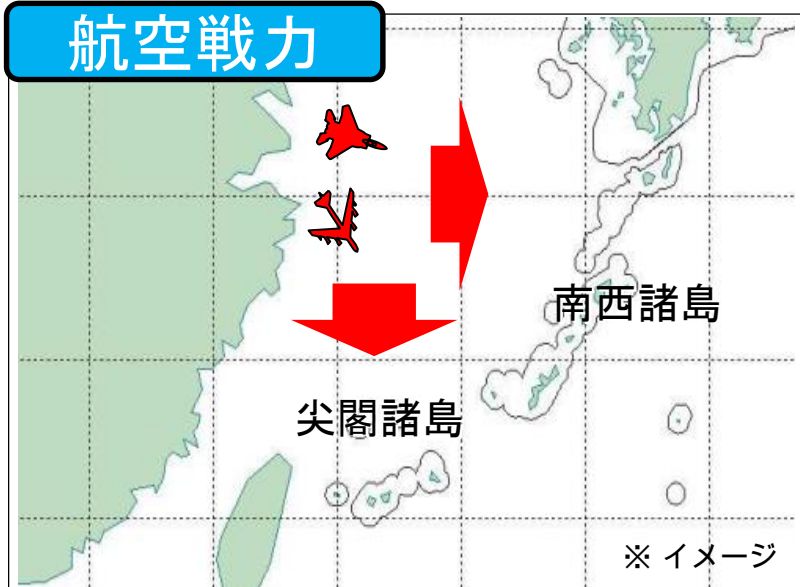


- 中国海軍艦艇は近年、その平素からの活動海域を南方向に拡大
- 日本の尖閣諸島に近い海域で恒常的に活動
- 2016年6月、中国海軍フリゲート1隻が尖閣諸島周辺の接続水域に入域（中国海軍戦闘艦艇としては初めて）
(図中オレンジの矢印)
- 中国海軍情報収集艦による活動も、尖閣諸島周辺で複数回確認（図中青の矢印）
- 2018年1月、中国海軍潜水艦が尖閣諸島周辺の接続水域で潜没航行(初確認)。同日、フリゲートも同水域に入域(図中緑の矢印)

尖閣諸島周辺の接続水域に入域した中国の潜水艦



航空戦力



- 空自による中国機に対する緊急発進(スクランブル)の回数は急激な増加傾向 ⇒ 2016年度には過去最多
- 中国軍用機の東シナ海における活動範囲は、東及び南方向に拡大する傾向
- 尖閣諸島近傍での中国軍用機の活動範囲が南方向に拡大する傾向
- ・ 2016年6月、中国軍用機が尖閣諸島方向に南下飛行

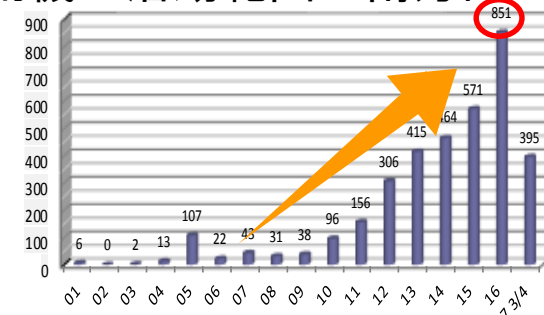
Su-30戦闘機



Tu-154情報収集機



我が国周辺で確認された軍用機の例



自衛隊による対中スクランブル回数(年度別)

西太平洋への進出

(資料源) 統合幕僚監部 (写真含)

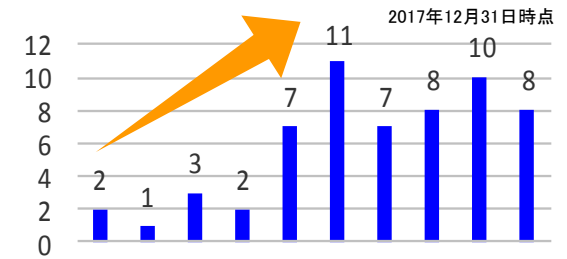
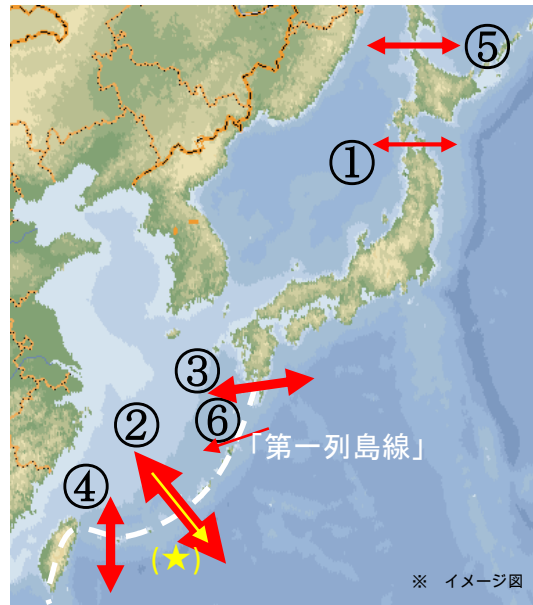
海上戦力

【外洋への展開能力の向上】

- 中国海軍艦艇は**高い頻度で太平洋へ進出**
- 進出経路は**多様化**
 - ・ ①津軽海峡、②沖縄・宮古島間、③大隅海峡、④与那国島・仲之神島間、⑤宗谷海峡、⑥奄美大島・横当島間

【外洋での運用能力の向上】

- 西太平洋における海軍三艦隊合同演習
- 2016年12月、**空母「遼寧」が西太平洋へ進出(★)**



2017年12月31日時点
戦闘艦艇の南西諸島等の通過を伴う太平洋での活動回数(年別)



沖縄・宮古島間を通過する空母「遼寧」

航空戦力

【沖・宮間を通過しての太平洋進出】

- **軍用機の種類は多様化**
 - ・ Y-8早期警戒機、H-6爆撃機、Y-8情報収集機、Y-9情報収集機、Tu-154情報収集機、Su-30戦闘機、Y-8電子戦機
- **飛行経路も多様化**

【自衛隊の対応】

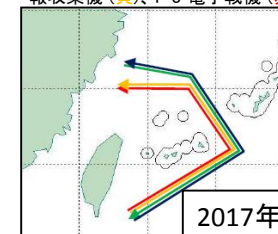
- 自衛隊機は、国際法及び自衛隊法に基づいて対領空侵犯措置を実施

H-6爆撃機(ピンク)4機、Y-8情報収集機(緑)、Tu-154情報収集機(黒)、推定戦闘機2機(黄)



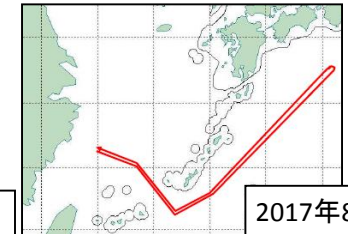
2016年9月

H-6爆撃機(緑4機 & 青4機)、Y-8情報収集機(黄)、Y-8電子戦機(赤)



2017年7月

H-6爆撃機6機(赤)

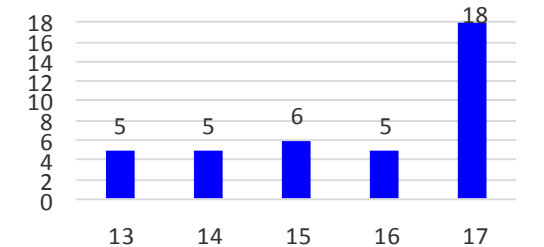


2017年8月

我が国周辺における中国軍用機の航跡(例)



紀伊半島沖まで進出したH-6爆撃機



2017年12月31日時点
中国軍用機の沖・宮間通過回数(年別)

中国は海上戦力・航空戦力ともに、日本海での活動を今後活発化させる可能性

1999年以降、中国は極地観測船「雪龍」を使用した北極観測を実施。

フチ級補給艦

ダラオ級潜水艦救難艦



「海上協力2017」に参加するため対馬海峡を北上した中国海軍艦艇(例)

中露共同演習「海上協力2013・2015(II)・2017(II)」

ウラジオストク

海軍艦艇・航空機による
協同訓練

青島(北海
艦隊基地)

上海

北極海航路へ

ベーリング海へ (★)



ルージョウ級駆逐艦



ジャンカイII級フリゲート

海上戦力

- 2016年8月、中国海軍艦隊による「対抗演習」※の実施が公表(初)。2017年1月にも、同海域で海軍艦艇・航空機が協同訓練を実施

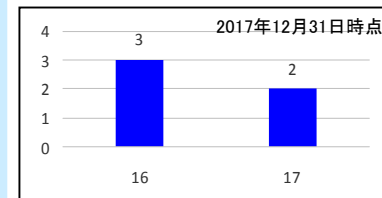
※ 対抗形式で行われる実戦的な演習を意味

- 2013年・2015年・2017年にはウラジオストク沖の日本海で中露共同演習「海上協力」を実施

※ 2015年の「海上協力」後には、中国海軍艦艇が宗谷海峡を通過し、アリューシャン列島沿い〜ベーリング海を航行(★)

航空戦力

- 2016年1月、中国軍用機による日本海進出が初確認。同年8月には、H-6爆撃機の日本海進出初確認



対馬海峡飛行が確認されたH-6爆撃機(上)及びY-8早期警戒機(下)

※イメージ図。航路や演習場所は推定

中国軍機の対馬海峡通過日数(年別)